

令和8年度 2 学年

== 共通教科 ==

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	学年	3	学科	全学科
使用教科書	新編文学国語 (大修館書店)			副教材	パスポート国語必携 (桐原書店)			対応資格	なし

1 目標

言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを旨とする。

(1)知識及び技術	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、自分の考えが効果的に伝わるように、表現の仕方等を工夫しようとしている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代文	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	進んで描かれている内容についての見解をまとめ、学習課題に沿って、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら、考えを深めようとしている。
古文	古文の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまりや古文特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	進んで文語のきまりや古文特有の表現を理解し、学習課題に沿って作者の考えを的確に捉えようとしている。
漢文	漢文の世界に親しむために、漢文を読むために必要な訓読のきまりや漢文特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、漢文を学ぶ意味について考えを持とうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCで評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、観点別の総括をABCで行う。また、前、後期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。後期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
発表・発言	○	○	○
ノート・プリント		○	○
行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

- ・教科書・ノート・副教材・Chrome book 等、忘れ物をしないこと。
- ・授業中は必ずノートを記入すること。
- ・提出物は、提出期限を守ること。
- ・主体的に授業に参加すること。
- ・発表や話し合いは、他者の意見に耳を傾け、お互いに認め合いながら学ぼうという姿勢で臨むこと。

教科	数学	科目	実用数学	単位数	1	学年	3	学科	全学科
使用教科書					副教材			対応資格	なし

1 目標

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
高校数学における基本的な概念、原理、法則などを理解し、基本的な知識を身に付けようとする力を養う。	数学的な活動を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的かつ論理的に考えることができるようになったか。また事象を数学的に考察・表現し、処理する方法を身に付け、効果的に問題を解くことができる力を養う。	数学的な活動を通して、数学的な考え方に興味を持つとともに、そのよさを認識し、主体的かつ能動的に事象の考察に活用しようとする力を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高校数学における基本的な概念、原理、法則などを理解し、基本的な知識を身に付けることができたか。	数学的な活動を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的かつ論理的に考えることができるようになったか。また事象を数学的に考察・表現し、処理する方法を身に付け、効果的に問題を解くことができたか。	数学的な活動を通して、数学的な考え方に興味を持つとともに、そのよさを認識し、主体的かつ能動的に事象の考察に活用しようとしたか。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(1) 基礎計算 (2) 方程式 (3) 値段と利益 (4) 様々な料金の計算 (5) 速さ (6) 鶴亀算 (7) 濃度の計算 (8) 年齢の計算 (9) 仕事算 (10) 比の計算 (11) 表の読み取り (12) 平均の計算 (13) 集合についての考え方 (14) 基本的な図形 (15) 順列・組合せ・確率	○日常生活における問題や社会問題を数学的に考察するためには、問題を単純にするような仮定が必要であることを理解している ○数学的に問題を解決するのに必要な数値や関数は、調査結果を用いて妥当な値を仮定できることを理解している。 ○情報を正しく読み取り、限定的な状況で費用の比較ができる。	○問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察し、別の仮定を立てて考察することができる。 ○問題の解決に関数やグラフを活用することができる。 ○1日ごとに変化する量について、漸化式を活用して考察できる。	○社会生活における問題について、学んだ方法を積極的に活用し、主体的かつ対話的に問題を解決しようとする。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。(仮評価) また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト	○		○
自学課題	○		○
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

数学は、数学的見方・考え方を身に付けることにより事象を論理的に考察する力、表現する力を養う教科です。座学が中心となりますが、普段の授業を大切にして問題意識を持って積極的に授業に参加し、課題や提出物にもしっかり取り組んでください。

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2	学年	3	学科	機関工学科
使用教科書	高校物理基礎(実教出版)			副教材	なし			対応資格	なし

1 目標

物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)知識及び技術	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
日常生活や社会との関係を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関係を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 物体の運動 1 運動の表し方 2 力と運動の法則 2章 エネルギー 1 運動とエネルギー	物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、その知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	物体の運動とエネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現することができる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
2章 エネルギー 2 熱とエネルギー 3章 波 1 波の性質 2 音と振動	様々な物理現象とエネルギーの利用を日常生活や社会と関連付けながら、その知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	様々な物理現象とエネルギーの利用について、観察、実験を通して探究し、波、熱、電気、エネルギーとその利用における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

4章 電気 1 物質と電流 2 磁場と電流	様々な物理現象とエネルギーの利用を日常生活や社会と関連付けながら、その知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	様々な物理現象とエネルギーの利用について、観察、実験を通して探究し、波、熱、電気、エネルギーとその利用における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
5章 物理と社会 1 エネルギーとその利用			
終章 物理学が拓く世界			

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCする。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括をABCで行う。(仮評価)また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

授業は必ずノート等に授業内容を記入し、提出物は期限を守ってください。教科担任の指示にしたがい、しっかり学習すること。忘れ物も無いように注意すること。

教科	地歴公民	科目	歴史総合	単位数	2	学年	3	学科	品質管理流通科・機関工学科
使用教科書	明解歴史総合 (帝国書院)			副教材	なし		対応資格		

1 目標

中学校学習内容の復習から導入し、近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査や諸資料から地域的・地球的課題への取り組みを理解することができるか。	歴史に関わる事象の意味や背景を位置や分布・自然環境に着目し、多角的・多面的に考察し課題解決に向けて構想したり説明できるか。	歴史に関わる諸事象についてよりよい社会の実現ができるよう課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養い、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さを深めることができたか。

3 〔指導項目〕ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料 1 資料を取り扱ってみよう 2 歴史叙述とは何か考えてみよう	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・達成度をA・B・Cの3段階で評価する。
序章 近代化への問い 1章 江戸時代の日本と結つく世界 2章 欧米諸国における近代化 3章 近代化の進展と国民国家形成 4章 アジア諸国の動揺と日本開国 5章 近代化が進む日本と東アジア	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・達成度をA・B・Cの3段階で評価する。
1章 第一次世界大戦と日本の対応 2章 国際協調と大衆社会の広がり 3章 日本の行方と第二次世界大戦 4章 再出発する世界と日本	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・達成度をA・B・Cの3段階で評価する。
1章 冷戦で揺れる世界と日本 2章 多極化する世界 3章 グローバル化のなかの世界と日本	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・達成度をA・B・Cの3段階で評価する。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において上記3観点で評価、学期末に観点別の総括をABCで行う。また、学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。学年末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。詳細は本校教務規定を参照の事。

本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	○
小テスト			○
ICT 機器の操作	○	○	
発表・話し合い	○	○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

教科	地歴公民	科目	歴史総合	単位数	2	学年	3	学科	海洋技術科・水産食品科
使用教科書	明解歴史総合 (帝国書院)			副教材	なし		対応資格		

1 目標

中学校学習内容の復習から導入し、近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査や諸資料から地域的・地球的課題への取り組みを理解することができるか。	歴史に関わる事象の意味や背景を位置や分布・自然環境に着目し、多角的・多面的に考察し課題解決に向けて構想したり説明できるか。	歴史に関わる諸事象についてよりよい社会の実現ができるよう課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養い、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さを深めることができたか。

3 〔指導項目〕ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料 1 資料を取り扱ってみよう 2 歴史叙述とは何か考えてみよう	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・達成度をA・B・Cの3段階で評価する。
序章 近代化への問い 1章 江戸時代の日本と結つく世界 2章 欧米諸国における近代化 3章 近代化の進展と国民国家形成 4章 アジア諸国の動揺と日本開国 5章 近代化が進む日本と東アジア	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・達成度をA・B・Cの3段階で評価する。
1章 第一次世界大戦と日本の対応 2章 国際協調と大衆社会の広がり 3章 日本の行方と第二次世界大戦 4章 再出発する世界と日本	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・達成度をA・B・Cの3段階で評価する。
1章 冷戦で揺れる世界と日本 2章 多極化する世界 3章 グローバル化のなかの世界と日本	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。	・達成度をA・B・Cの3段階で評価する。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において上記3観点で評価、学期末に観点別の総括をABCで行う。また、学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。学年末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。詳細は本校教務規定を参照の事。

本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	○
小テスト			○
ICT 機器の操作	○	○	
発表・話し合い	○	○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

教科	英語	科目	論理表現 I	単位数	2	学年	3	学科	海洋技術科・品質管理流通科
使用教科書	VISTA ENGLISH Communication I (三省堂)			副教材	コア本1800(東京書籍)		対応資格	なし	

1 目標

言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うと共に、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き等の理解を深めると共に、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況等に応じて適切に活用できる技能を身に付ける。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じ、日常的、社会的な話題について、外国語で情報や考え等の概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図等を的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得すべき知識や重要な概念等を理解し、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自ら学習し、習得しようとしている。

3 【指導項目】 Lesson ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Lesson 1 初めての食事	食事に関して、料理を褒める、勧める、断る等の表現を理解できる。	食事に関して、料理を褒める、勧める、断る等の表現を活用できる。	食事に関して、料理を褒める、勧める、断る等の表現を積極的に活用しようとする。
Lesson 2 道に迷う	道案内に関して、提案する、依頼する、道順を説明する等の表現を理解できる。	道案内に関して、提案する、依頼する、道順を説明する等の表現を活用できる。	道案内に関して、提案する、依頼する、道順を説明する等の表現を積極的に活用しようとする。
Lesson 3 人物紹介	人物紹介に関して、身近な人を紹介する、注意を引く等の表現を理解できる。	人物紹介に関して、身近な人を紹介する、注意を引く等の表現を活用できる。	人物紹介に関して、身近な人を紹介する、注意を引く等の表現を積極的に活用しようとする。
Lesson 4 体調が悪い	体調不良に関して、体調を伝える、尋ねる、指示する等の表現を理解できる。	体調不良に関して、体調を伝える、尋ねる、指示する等の表現を活用できる。	体調不良に関して、体調を伝える、尋ねる、指示する等の表現を積極的に活用しようとする。
Lesson 5 買い物	買い物に関して、材料を買う、特徴を伝える、相槌を打つ等の表現を理解できる。	買い物に関して、材料を買う、特徴を伝える、相槌を打つ等の表現を活用できる。	買い物に関して、材料を買う、特徴を伝える、相槌を打つ等の表現を積極的に活用しようとする。

Lesson 6 行ってみたい場所	行ってみたい場所に関して、希望を述べる、理由を述べる等の表現を理解できる。	行ってみたい場所に関して、希望を述べる、理由を述べる等の表現を活用できる。	行ってみたい場所に関して、希望を述べる、理由を述べる等の表現を積極的に活用しようとする。
Lesson 7 イベントに誘われる	勧誘することに関して、誘う、誘いを受ける、誘いを断る等の表現を理解できる。	勧誘することに関して、誘う、誘いを受ける、誘いを断る等の表現を活用できる。	勧誘することに関して、誘う、誘いを受ける、誘いを断る等の表現を積極的に活用しようとする。
Lesson 8 スクールカウンセラーに相談	悩み相談に関して、状況説明、手助けの申し出、助言、感謝等の表現を理解できる。	悩み相談に関して、状況説明、手助けの申し出、助言、感謝等の表現を活用できる。	悩み相談に関して、状況説明、手助けの申し出、助言、感謝等の表現を積極的に活用しようとする。
Lesson 9 お気に入りを紹介	自分の趣味に関して、あらすじの要約、登場人物の紹介、感想や批評等の表現を理解できる。	自分の趣味に関して、あらすじの要約、登場人物の紹介、感想や批評等の表現を活用できる。	自分の趣味に関して、あらすじの要約、登場人物の紹介、感想や批評等の表現を積極的に活用しようとする。
Lesson10 打ち合わせに遅刻	失敗することに関して、謝る、許す、励ます等の表現を理解できる。	失敗することに関して、謝る、許す、励ます等の表現を活用できる。	失敗することに関して、謝る、許す、励ます等の表現を積極的に活用しようとする。
Lesson11 家庭でのディスカッション	議論することに関して、共感、残念な気持ち、解決策の提案等の表現を理解できる。	議論することに関して、共感、残念な気持ち、解決策の提案等の表現を活用できる。	議論することに関して、共感、残念な気持ち、解決策の提案等の表現を積極的に活用しようとする。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。(仮評価) また、2、3 学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。後期期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を 1・2・3・4・5 の 5 段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
調べ学習・レポート		○	○
発表・作文		○	
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

英語は座学と実技の 2 つの側面を持っています。そのため、テストだけ頑張っても良い成績は残せません。普段の授業を大切に、発表や調べ学習にも積極的に取り組んでください。

教科	英語	科目	実用英語	単位数	1	学年	3	学科	水産食品科・機関工学科
使用教科書	なし			副教材	ユバス1800(東京書籍)		対応資格	実用英語検定3級	

1 目標

英語でのプレゼンテーションで自分の感想や意見を発表できることを目標に、基本的な英単語、英熟語、英文法の習得することを目指す。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
日常的话题で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につける。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができる。	英語でのコミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、実際にクラスメートとコミュニケーションを図ろうとする。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常的话题で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につけているか。 主に定期考査（中間考査50点+期末考査50点）で評価する。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に定期考査（中間考査50点+期末考査50点）で評価する。	英語でのコミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、実際にクラスメートとコミュニケーションを図ろうとしたか。 主に課題プリント、授業の取組、発表で評価する。

3 【指導項目】 Lesson ごとの評価規準

指導項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実用英語学習① ・基本英単語の確認 ・基本英熟語の確認 ・英作文作成 ・Eメール作成	日常的话题で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につけているか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に課題プリント、授業の取組で評価。
実用英語学習② ・基本英会話の表現の確認 ・基本英文法の確認 ・英作文作成 ・Eメール作成	日常的话题で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につけているか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に課題プリント、授業の取組で評価。
実用英語学習③ ・リスニングのポイント ・英作文作成 ・Eメール作成	日常的话题で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につけているか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に課題プリント、授業の取組で評価。
実用英語学習④ ・リスニングのポイント ・英作文作成 ・Eメール作成	日常的话题で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につけているか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に課題プリント、授業の取組で評価。
実用英語学習⑤ ・日常的话题についてのプレゼンテーション①	日常的话题で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につけているか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に課題プリント、発表で評価。

実用英語学習⑥ ・日常的な話題についてのプレゼンテーション②	日常的な話題で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につけているか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に課題プリント、発表で評価。
実用英語学習⑦ ・日常的な話題についてのプレゼンテーション③	日常的な話題で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につけているか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に課題プリント、発表で評価。
実用英語学習⑧ ・社会的な話題についてのプレゼンテーション①	日常的な話題で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につけているか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に課題プリント、発表で評価。
実用英語学習⑨ ・社会的な話題についてのプレゼンテーション②	日常的な話題で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につけているか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に課題プリント、発表で評価。
実用英語学習⑩ ・社会的な話題についてのプレゼンテーション③	日常的な話題で使用する基本的な英単語、英熟語、英文法の知識を身につけているか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に定期考査で評価。	学習したことを応用して、英文の内容を理解したり、自分の伝えたいことを英語で表現したりすることができるか。 主に課題プリント、授業の取組、発表で評価。

4 観点別学習状況の評価について

各考査において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のすべてについて abc で評価する。(評価基準は單元ごとに設定)

この結果を数値化することで、考査毎に観点別の総括を ABC で行う。また、前後期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。さらに後期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト			○
自学課題			○
発表			○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

英語は座学と実技の2つの側面を持っています。そのため、テストだけ頑張っても良い成績は残せません。普段の授業を大切に、発表や発言などを通して積極的に授業に参加しましょう。

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3	学年	3	学科	全学科
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)			副教材	保健体育ノート		対応資格		

1 目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体育理論 1.「スポーツの文化的現代のスポーツの発展」	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えようとしている。	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に主体的に取り組もうとしている。
体育理論 2. 運動やスポーツの効果的な学習の仕方	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。		
体育理論 3. 豊かなスポーツライフの設計の仕方	豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解している。		
集団行動	様々な環境下で実践する際の集団の一員としての自覚や行動を実践するための技能を習得している。	集団の中の一員としての自覚をよりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えようとしている。	集団行動を自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすることや、健康・安全を確保しようとしている。
体づくり運動	様々な環境下で実践する際の健康・安全の確保の仕方やマナーなどの多様な関わり方を実践するための事項を理解している。 地域社会での活動などの企画や運営、健康・安全の確保、スポーツを通じた良好な人間関係の形成する際などに求められる技能を習得している。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。	生涯にわたってスポーツを実践していく際の協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高めスポーツの推進及び発展に寄与する自己の姿勢や他者、地域社会との関わり方などのスポーツ価値を高めることに主体的に取り組もうとしている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器械運動	技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技している。	技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、一人1人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする、健康・安全を確保しようとしている。
サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとするなど、健康・安全を確保しようとしている。
陸上競技	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けている。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保しようとしている。
水泳	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。	泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保しようとしている。
柔道	技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができる。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えようとしている。	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保しようとしている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
バレーボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	バレーボールに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。
バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	バスケットボールに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各学期末に観点別の総括を ABC で行う。後期期末(年度末)には、それぞれの学期の観点別の評価(ABC)を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

1年間の観点別の評価(ABC)は、学校で定めた下の表から1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定
AAA	5
AAB	5
ABB	4
AAC	4
ABC	3
BBB	3
BBC	3
ACC	3
BCC	2
CCC	1

【目標の実現に向けた学習状況】

- a, A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの
- b, B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- c, C: 「努力を要する」状況と判断されるもの

なお、本科目では以下の方法で書く観点の評価をおこなう。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実技試験	○		○
発表・話し合い		○	○
発言・行動観察		○	○
自己評価・相互評価	○	○	

5 担当教員から

体育館、グラウンドで授業を行う。時間厳守、意欲的な態度で参加し、ジャージ等の忘れ物が無いよう注意すること。

教科	家庭	科目	栄養・調理研究	単位数	2	学年	3	学科	水産食品科
使用教科書				副教材	フード&クッキング レシピ+成分表 (美教出版)		担当教諭	石川 佳寿美 (いしかわ かずみ)	

- 1 目標
1. 栄養・調理に関する知識と技術を総合的に習得し、食生活の充実向上にむけて主体的に問題を解決する力を育む。
 2. 国際社会での食に関わる職業人として、これまで習得した学科の学習を生かしながら多様な食文化への理解や諸問題について広い視野で事象をとらえ、合理的かつ創造的な調理研究をとおして課題解決能力を身につける。

(1)知識及び技術	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
栄養・調理などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る知識・技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、国際的視野をもって合理的かつ創造的に課題を解決する力を養う。	食生活に関する問題に関心を持ち、国際社会で活躍する人材として日本および世界の食文化に関心を持ち、自分らしく主体的に調理研究に取り組み、自分や家庭、地域の食生活改善を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主体的に健康の保持増進に必要な栄養、食品、献立、調理などに関する知識・技能を身に付けている。	食生活に関する問題について思考を深め、学習を結びつけて課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、広い視野を持って課題を解決する力を身に付けている。	食生活に関する問題に関心を持ち、国際社会で活躍する人材として日本および世界の食文化に関心を持ち、自分らしく課題解決に向けて主体的に取り組み、自分や家庭、地域の食生活改善を図るために実践しようとしている。

3 評価基準

地域の関係機関の協力を得ながら、実験実習・テーマ学習など、各自の興味関心を生かし課題意識が持てるような指導と評価を工夫する。

また、地域の食文化を学びつつ、現代の食生活の栄養学的問題点を捉え、共同的に学びに取り組む態度を細分化し、実習においては作業段取りや再現性、衛生的な取り扱い方法や協働性を評価する。

日々の授業での取り組み態度、プリント提出における記入内容並びに思考・判断・表現について、分量や内容によって評価することとする。テーマを意識し目標設定をかかげて自らが主体的に取り組む姿勢を点数化する際には、壁新聞の発表会やレポート等の提出物によって細分化し評価することとする。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCで評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各学期末に観点別の総括をABCで行う。学年末には、それぞれの学期の観点別の評価を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

1年間の観点別の評価(ABC)は、学校で定めた下の表から1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定
AAA	5
AAB	5
ABB	4
AAC	4
ABC	3
BBB	3
BBC	3
ACC	3
BCC	2
CCC	1

【目標の実現に向けた学習状況】

- A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの
- B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- C: 「努力を要する」状況と判断されるもの

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	○
実験・実習	○	○	○
小テスト	○		
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート		○	○
発言・行動発言			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

- ① 提出物は期日までに必ず提出してください。調理実習のレポートは原則翌日提出です。未提出の場合は評価しません。
- ② 忘れ物 (教材本・ファイル・材料・エプロン・バンダナ他)・遅刻・居眠りは減点とします。
- ③ 考査は100点満点。授業をよく聞き、メモをとることで得点につながります。
- ④ 「次に使う人が気持ちよく使えるように後片付けをする」ことでみんなが気持ちよく実習室を使うことができます。相手の立場に立って想像力を膨らませ、常に思いやりの気持ちを持ちましょう。
- ⑤ 国際社会で生きる日本人としての自覚をしっかりと持ち、日本の四季を五感で感じながら、水産高校での学びを通して日本のおもてなし文化を伝承し、ポジティブに実践していきましょう。